

地域・学校・親 三位一体で子どもを守る



【稲生学区】

■世帯数：5,683 世帯

■人 口：12,231 人

■面 積：0.987 k^m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 児童の安全を守るため、ボランティアを中心とした「稲生学区子どもを守る会」を結成し、登下校時の見守り活動を行っている。当番制では負担が大きいため、無理のない範囲での活動をお願いしている。
- 年に 1 回、稲生小学校で「感謝の会」を実施。1 年生から 6 年生までの教室に分かれて、子どもを守る会のメンバーと子ども達と一緒に給食を食べながら交流している。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、区政協力委員より各町内の子ども、高齢者を守ってくれる人を募集

【アピールポイント】

子どもたちがあいさつしてくれるようになったほか、年 1 回、小学校で「感謝の会」を実施している。活動を通じて、子ども、保護者、先生、子どもを守る会の人の輪が大きく広がっている。

2 きっかけ、背景

平成 17 年に、学区内の女子児童が見知らぬ男に後をつけられるという事件が発生した。これをきっかけに、「地域の子どもは地域で守らなければ」という思いから、「稲生学区子どもを守る会」を発足。子どもの見守り活動に限らず、地域が一体となって防災・防犯に取り組まなければならないとの思いで、活動を展開している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、稲生クラブ、学区
連絡協議会

(2) 他団体との協力

老人会、女性会、民生委員

(3) 運営協力

学区区政協力委員会の定例会や、
学区連絡協議会で協力者の勧誘をお
願いする。

4 実施のスケジュール

H17年12月 区政協力委員会に呼びかけ、
「子どもを守る会」の参加者募
集を開始

H18年1月 参加者15名で発会式

H23年7月 稲生小学校での「感謝の会」を
稲生クラブで提案
子どもを守る会メンバーと児
童と一緒に給食を食べる「感謝
の会」を開催（H24年1月に
も実施）

H24年4月 子どもを守る会会員が45名に
なる

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 地域の安全に対する住民の意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 子どもを守る会の会員が増加した。
- ・ 参加者は、自分の子どもや孫がいなくても、自分の町内の子どもたちを守るために見守り活動をしている。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保。できれば学区内の全町内会に参加してほしい。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動の継続が課題。学区住民に地域の安全に対する不安がある限り、活動を継続したい。

